

兵庫代協 新入会員オリエンテーションとセミナー開く 13新会員に代協の活動と役割など解説



紀会長



塩谷氏



永戸氏

兵庫代協(紀隆普会長)は9月6日、姫路支部(笹木保博支部長)と合同で香港酒家フォーラスイースト(姫路市東駅前町)で新入会員のオリエンテーションとセミナーを開催した。第1部の新入会員オリエンテーションでは塩谷広志副会長(組織委員会担当)と永戸潤副会長(教員委員会担当)がそれぞれ日本代協と兵庫代協の説明を行い、第2部では心と癒しのセミナーとして、ヒーリングルーム(つむぎ)主宰のべつめいさちこ氏が疲労回復のマッサージなどを紹介した。会場には2011年、12年に入会した13店の新会員を含む会員37人が集まった。

紀会長は、あいさつのオリエンテーションは2年ごとの開中で新入会員オリエンテーションは2年ごとの開催となっていると説明。知ってほしいと述べた。

「47都道府県の集まりである日本代協は、損保協会との協定事項を支部会へ下ろし、各会員へと周知していく役割も持つ」として、日本代協、

代協の積極的な活用が業容拡大に

兵庫代協の組織・役割をめぐっては、塩谷副会長はまず、兵庫代協の加入状況を説明。「専業代理店が1156店あるが、現在、会員は253店(6店増、9店減)となっている。今年組織率24%としており、277

店を目標に1店でも多くの代理店に加入してもらいたい」として代協加入の促進を呼び掛けた。

また、同氏は「日本代協の事業計画と各代協の役割」と題して、日本代協が作成した「代協活動の現状と課題」『活力ある代理店制度研究会(平成22年度報告)』にのっとり解説した。日本代協の組織、定款、目的、さらにはどのような事業をしているのか、倫理綱領や募集規範を含めて説明した。特に活力ある代理店制度研究会の中では、代理店を取り巻く外部的な競争要因の対応策などを述べ、職業団体として声を挙げることでできる唯一の組織であることを強調。近隣代協との関係では、兵庫、大阪、和歌山の大阪湾でつながる阪神ブロック、京都、奈良、滋賀県の近畿ブロックの6県にわたるブロック協議会にも触れた。最後に、兵庫代協は47都道府県の中で組織率が46位だと述べ、この現状を打開するためにPRに努めてほしいと強調した。

続いて永戸副会長が「兵庫代協の組織と活動」をテーマに、兵庫代協の活動や活用方法に重点を置き解説した。具体的活動については、六甲山への植林や下草刈りなどのCSR活動にも及んだ。

同氏は、代協の位置付けを「学校のように、出席していれば自然と学業を達成できるシステムではない」とした上で、「代協に入っても、何もしなければ何も起こらない。何をやるかは自身の行動による」として、代協での活動方法を示唆した。

仲村義弘姫路支部担当副会長は、「代協行事のセミナーを活用し、業容の拡大に役立ててほしい」と締めくくった。

第2部の心と癒しのセミナーでは、べつめい氏が疲れやストレスから起こる精神的な疲労をマッサージで回復する仕方について、実技を交えて講演した。